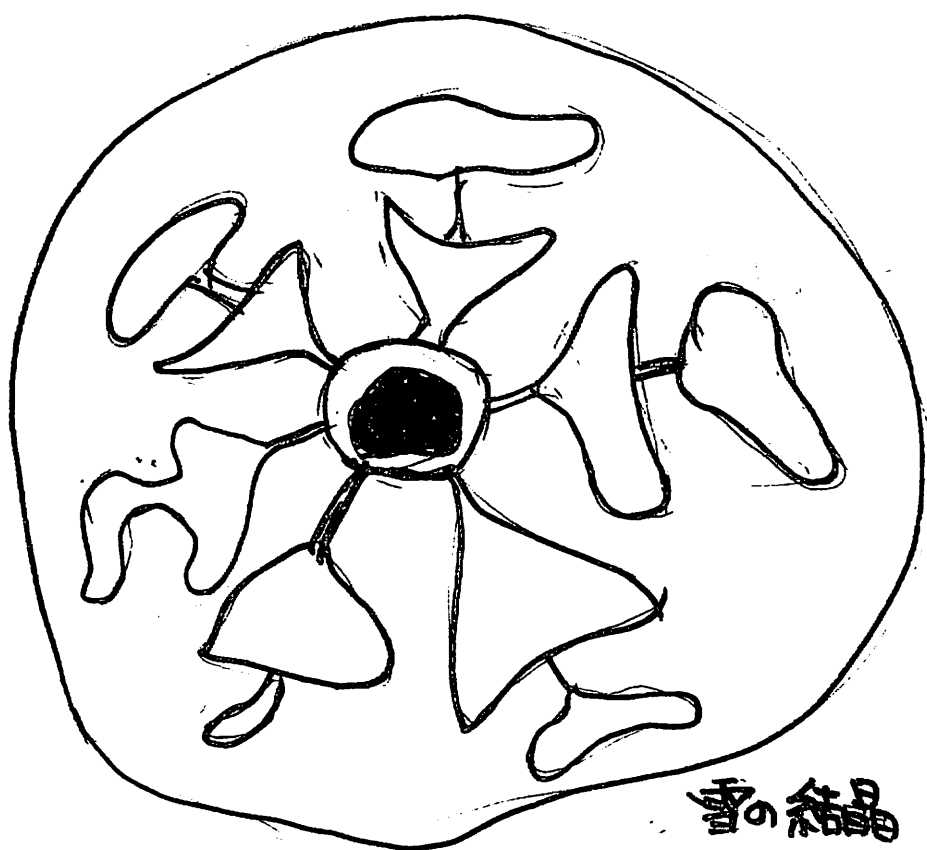


2003 冬合宿 報告書

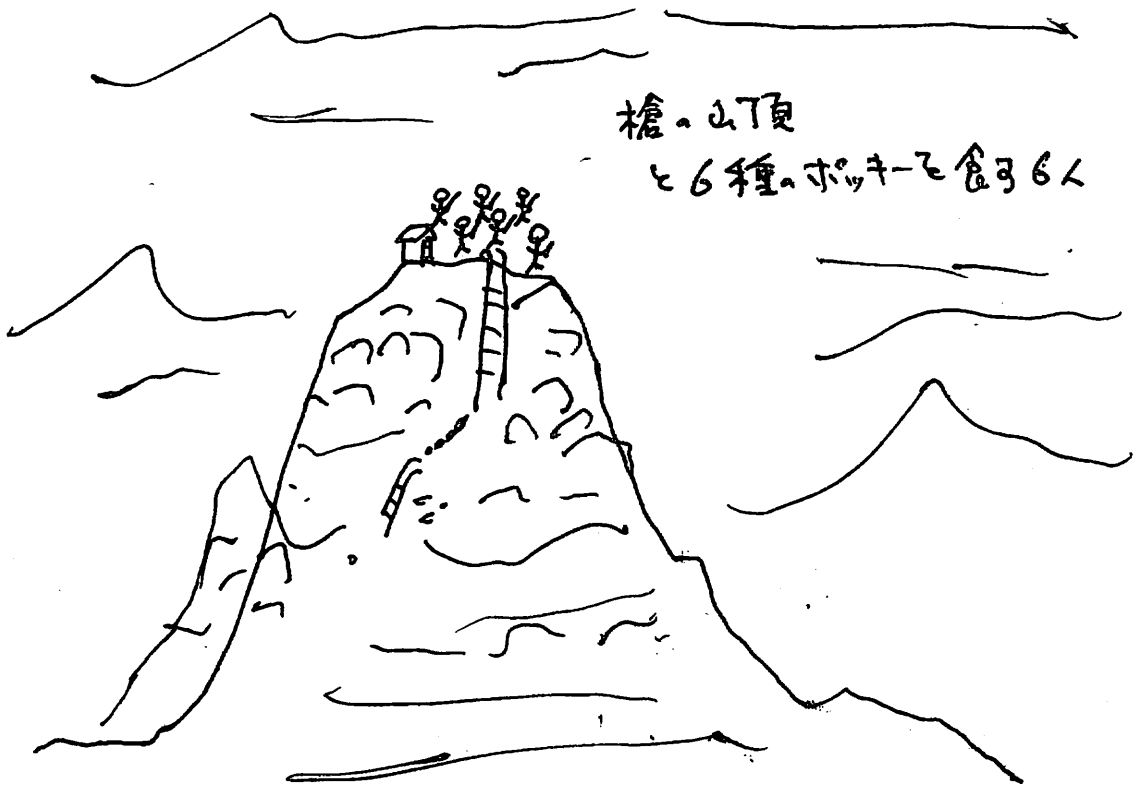


信州文学山岳会

12/
23~30, 2003

— 目次 —

冬宿概要	… 2
行動記録	… 3
個人の反省・感想	… 8
係の反省・感想	… 18



<冬合宿概要>

山行地域 横尾尾根～槍～中崎尾根

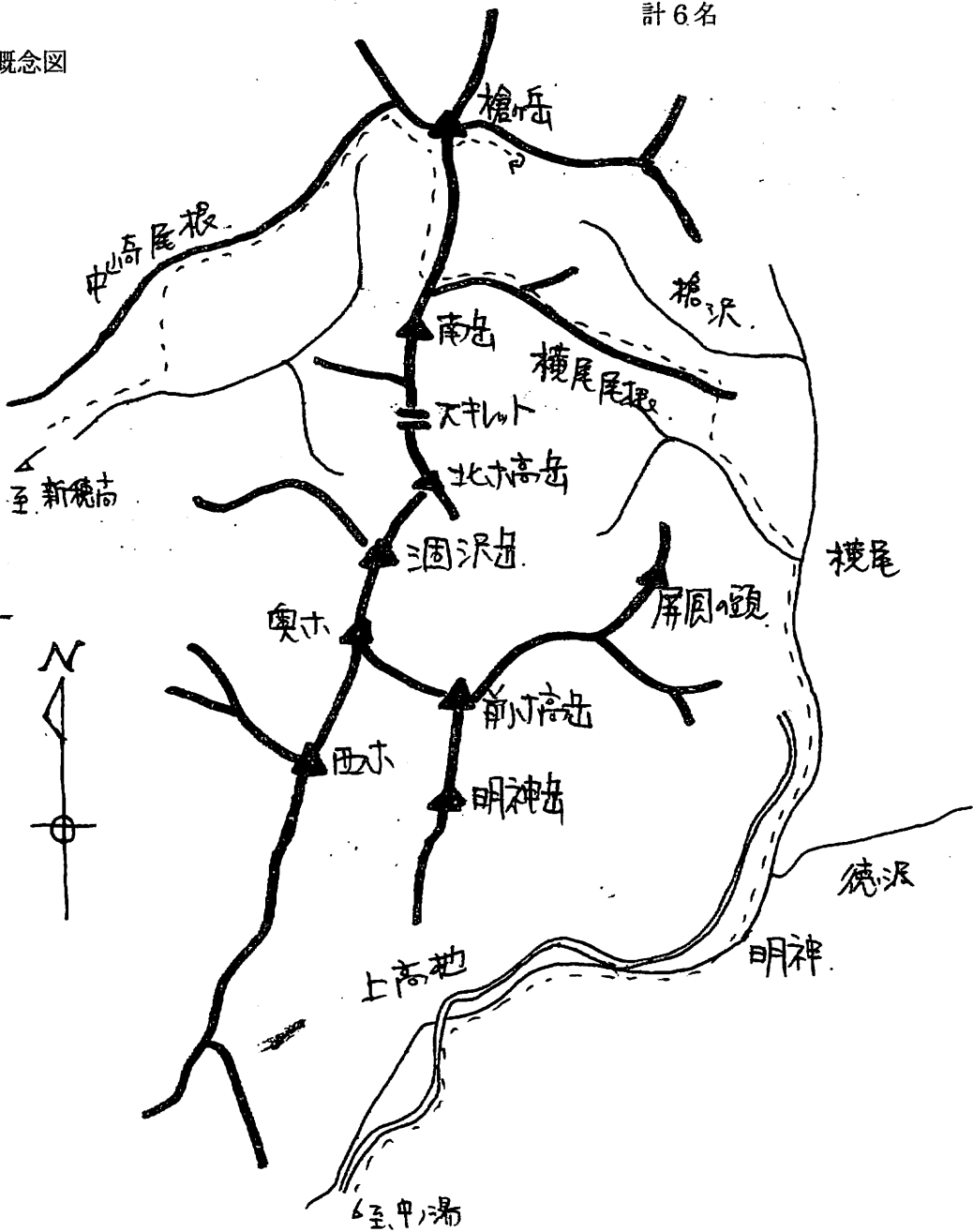
山行期間 12月23日～12月30日

メンバー 佐藤祐樹(4) 片寄哲生(3) 三森岳志(2)

小尾智明(1) 高松昭彦(1) 畠中洸(1)

計6名

概念図



<行動記録>

12月25日 晴れ

4:00	ボックス集合	10:15	明神館
6:35	中の湯出発	12:30	徳沢園
8:45	河童橋	16:05	横尾避難小屋

岸本・横山（勝丘）さんに満面の笑顔で見送ってもらい、皆、意気揚揚と出発。この時期はまだ人の入りは少なく、僕らだけの上高地を満喫できた。歩いていてここまで気持ちいい所もなかなかない。途中、明神に最終日用得盛りセットの入ったデポ缶を残置し、ここに必ず降りてこようと心に誓う。徳沢園から横尾まではトレースが消え、ラッセルとなった。1年生は初めてのラッセルでもがき、小尾に関しては早速つりの症状が出ていた。その晩、小尾は全身つってもがき苦しんでいた。悪いことにサブの片寄が「3箇所以上つると死んじゃうんだって」と意味のないデタラメを言ったため、それを真に受けた小尾がさらにパニックになったしまった。小尾がつりやすい事に関しては前々からわかっていた、それなりの準備をしていたつもりだったのだが、まさか1日目からこんなに激しくつるとは予想していなかった。初日からこれではこれからの行程はどうなることか。ということで、1年を含め全員で小尾をどうするか話し合った。明日おろすか、もしくは槍までは連れて行くか…。遅くまで話し合った後、全員一致でどんなに時間をかけても槍までは一緒に行くことに決定した。横山さんの差し入れしてくれた赤ワインで、皆一緒に槍に行けるよう乾杯する。そして小尾には能勢先生から教えて貰っていたツリ療法を実施した。といっても、ただ単に水と塩分をたくさん摂取することであった。この日以来、小尾には朝夕共に皆より1L多く水を飲むこととなった。うっふ。

初めてのラッセル……もうグッタリ。みんなで槍を目指すぞ!!

(記録帳より畠中)

12月24日 雪のち曇り

5:00	起床	13:25	2のガリーのコル
7:10	出発	16:25	P3TS
10:00	2のガリー取付		

朝、嫌がる小尾に無理やり水を飲ませ出発。ラッセル、ラッセル、ラッセル……。やっとガリーを登りきり、P3手前のコルに着く。P3の登りからは地面に新雪が積もっただけの歩きにくい木登りラッセルとなり苦しめられた。途中4mくらいの岩をお助けシュリングでのっ越したり、凍った草付きをピッケルを突き割して登るなど、重たい荷物と古賀さんからの差し入れ(クリスマスケーキ)を手で持ってる状態ではではなかなか悪い。テン場に着いた時はすでに薄暗かった。もちろんこの日、男たちだけのクリスマス・イヴをひっそりと楽しむ。古賀さんのケーキは慎重に持ってきたつもりでいたのだが、中を開けてみたらグチャグチャ。まあ、口に入れば一緒だな。最高にうまかった。

あんまりラッセルはできなかつたけどロマンとスリルにあふれた1日だった。しかし、ズボルのはかなりしんどい。(記録帳より高橋)

12月25日 晴れ

4:00 起床 13:45 P4

6:15 出発 15:45 2450付近T. S

9:30 3のガリーのコル

P3の下りを薄暗いうちから動き始める。途中、両側がスッパリ切れたところがありそこに時間をかなり費やしてしまった。毎日浴びるような酒ではなくて水を飲まされていた小尾がここのフィックス通過中、小便を漏らしそうになってパニックになったことが印象に残っている。また、懸垂も1箇所出てきた。2のガリーから上がるよりは3のガリーから上がるほうが断然早いと思う。P3の登り、下りともに荷物を背負っている僕らにはいやらしく、悪かった。P4もやっこさ越えて、P5手前のコルにて幕営した。

小便が漏れるくらい怖かった。(記録帳より小尾)

12月26日 雪

4:00 起床	9:30 横尾の歯
6:50 出発	14:00 天狗のコル⇄デポ上げ
7:30 P5	17:10 天狗のコル

今日こそ稜線へ。意気込んで出発。横尾の歯で時間がかかったものの、そこまでは雪もクラストレスピードは上がってきた。しかし、そうは問屋がおろさない。なぜか進むにつれ雪の量が増していき、気が付いたときには相当の雪の量。ひどい所では頭までのラッセルになっていた。やっと天狗のコルに着いたときにはすでにPM2:00であった。ひよつとしたらこれから標高が上がるにつれクラストしていくのでは、と甘い期待を信じてコルを出発したが150mぐらいか標高を上げた所で挫折した。稜線まであと150mぐらいというのに全くクラストしている様子はない。むしろどんどん雪の量は増していき、頭以上の雪を掻き分け掻き分けラッセルしていった。何だこれは……。結局、稜線に上がれず今日は天狗のコルに幕営した。明日は強い冬型との予報を聞いていたので、ブロックを作り備えた。

山を思えば人恋し、人を思えば山恋し、ラッセルすれば稜線恋し……

(記録帳より高橋)

12月27日 猛吹雪

沈殿

夜から風が強くなり始め、朝起きたときにはかなりの強風が吹いている。途中、昨日作ったブロックが脆くも崩され、風にテントが潰されをうになる。1年生はテント内でポールを押さえ、上級生はせつせと堅牢なブロック作りに勤しんだ。飛んだ小便が下に落ちずに飛び回るような、なかなかの強風であった。

小便がきついで、ちくしょー (記録帳より三森)

12月28日 快晴

4:00	起床	11:45	大喰岳
6:50	出発	12:30	槍ヶ岳山荘⇄槍ヶ岳
10:30	中岳	14:40	槍ヶ岳山荘

朝、起きてみてびっくり仰天。一昨日まで頭上まであった雪はすべて消え失せ、カツカツのクラスト斜面が目の前にあった。こうなると、槍までひとつとび。心地いい稜線の風に吹かれながら槍ヶ岳につく。小尾、感涙す。山頂で大木さんの差し入れ「冬合宿最終兵器」を開けてみると、ポッキーのいろいろな味・全8種類入っていた。どこが最終兵器かはよくわからなかったが、とにかくうまかった。槍の山頂とポッキー。なかなかおつな組み合わせであった。

寒い寒い。でも快適。大木さんのポッキーうまかった。

(記録帳より島中)

12月29日 晴れのち吹雪

4:00	起床	9:45	槍ヶ岳山荘
6:30	出発	11:45	千丈沢乗越
7:20	島中滑落	15:25	中崎尾根T. S
7:30	島中と合流		(2100m付近)

そう言えば、今合宿が始まる12月25日の朝、佐藤が左足のプラブーツの靴紐をしめた瞬間、靴紐がぶちっと切れ落ちた。そしてこの日の朝、今度は右足の靴紐が切れた。そのときは、何も気にもとめなかった。今思えば、あれは誰かの警告だったのかもしれない。この日の朝は、凄まじい色で周りの山々が燃えていた。昨日通ってきた中岳、大喰岳、そして槍ヶ岳。これらの山々は特に我々の目の前で真紅に染まり、本当の雪の色をしばし忘れさせた。そして、島中の事故。すべての予兆が終わり、事故が起きた。

どこかで食い止める方法があったはずだ。予兆のかけらひとつにでも気が付いていれば……。すぐに助けに降り、下には島中の笑顔があった。なんと笑っていた。本人はただ合流できてうれしかったのだが、なんと笑顔

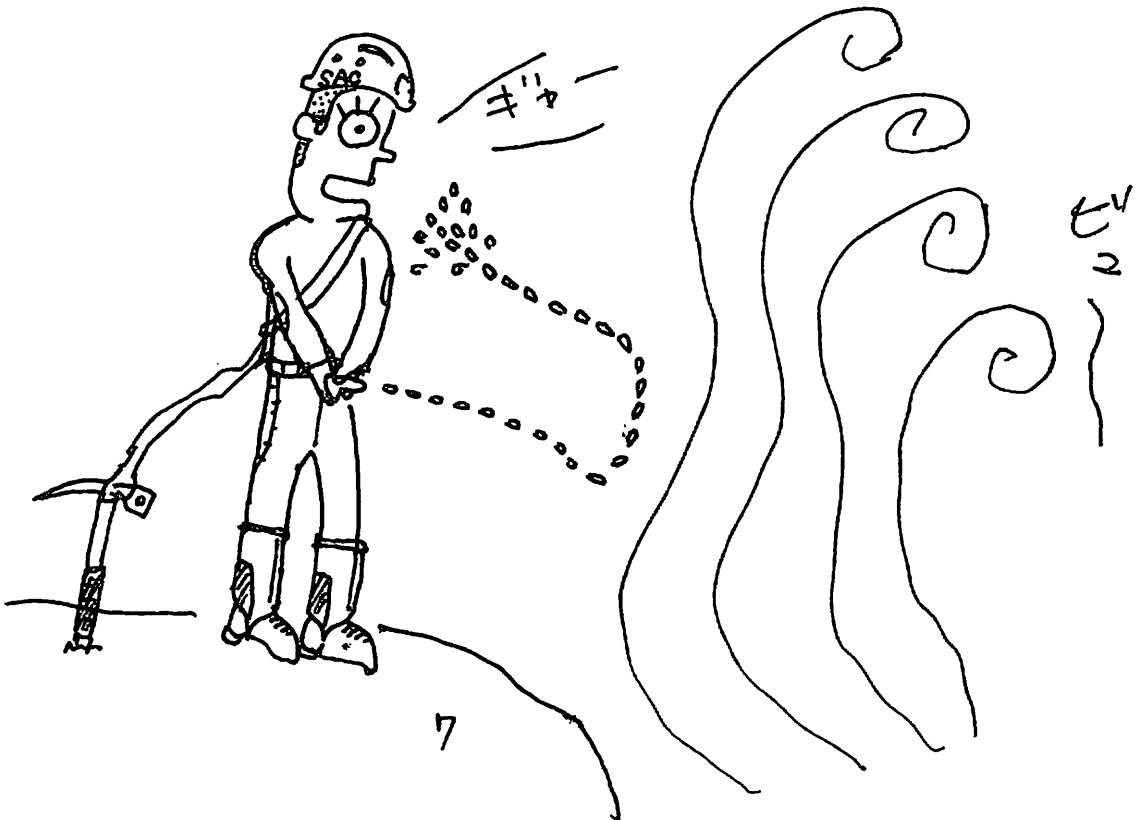
であった。図太い奴だと思ったが、今思うと、あの笑顔にだいぶ助けられたと思う。ありがとう、畠。(詳細は冬合宿事故報告書参照)

畠中のザックの中身は食料であったため、直ちに下山を開始。槍に登り返し中崎尾根に下降路を求める。途中の平坦地まで歩き、幕営した。その夜、畠中は生きている実感を徐々に感じ取っているようであった。いやはや人生いろんなことがある。(記録帳より高橋)

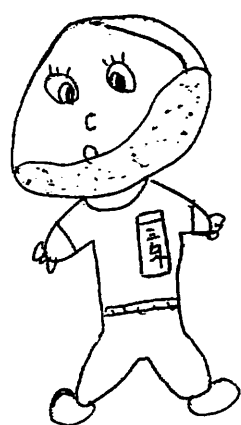
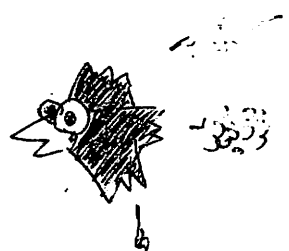
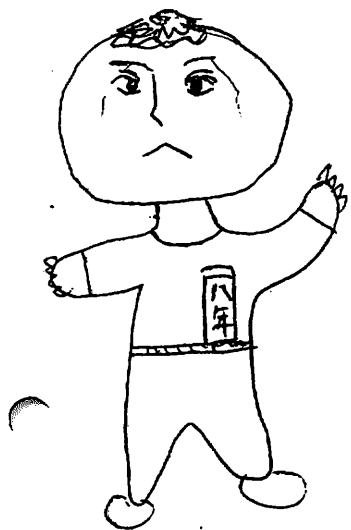
12月30日 晴れ

4:30	起床	11:40	穂高平
6:45	出発	12:40	新穂高温泉
10:45	白出小屋	15:40	ボックス着

昨日の雪でトレースは消え、赤布と地図を見ながらの下山。新穂高温泉にはインフルエンザで不参加となった高谷が来てくれた。ボックスにて春寂寥を熱唱し幕を閉じた。



個人の反省・感想



モグモグ



反省感想 一年 小尾智明

今回の冬合宿は初めての冬山であった。
緊張したし、恐怖感もあった。

また、基本的な生活技術、体力
が欠けていた。強風などの悪条件
があるし、頭が混乱してしまい冷静
でいられなかった。精神力も衰えた。

また横尾の小屋でけいじんが起り
際にはニミ感をおかしました。

行動をすばやくすることが足りなかった。
意識をおぼえるほどおせりが出てくる。
冷静さを保つことができなかった。

アイゼンの歩き方もフットにあること
がうまくいかないことがあった。

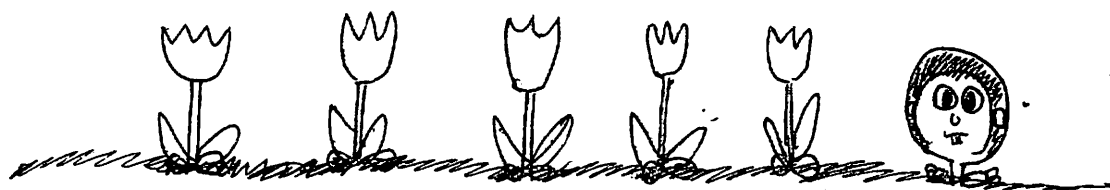
落ち着き、冷静さを保つ、そして

自分に足りないものをレベルアップさせる

反省を次回には生かさなければならぬ!
今回は、はたけが事故を起こして、
が、こんな自分の状況は自分が事故を
起こしてもおかしくはなかった。

事故の恐怖を知り、その恐怖を
内に秘め、己に勝てるよう、
この事故を無駄にしないよう、
自分に活を入れます。

以上。



輝く風の山嶺で

高橋昭彦

槍ヶ岳。言わばと知れた北アルプス南部の盟主。在り物語はここへ向かい、またここから始まる。冬合宿の行き先が決定した時から、私の心には、雪煙の彼方へ佇む槍が常に浮かんでいた。瞬く間に時は過ぎ、遂に、槍に会いに行く機会が訪れた。横尾尾根では(部分的に)河解き、川に苦しめられたが、冬山の神秘に満ちた景色からテントを壊す程の強風を味わい、それを共に槍の穂先に立った時の感激もひとしおであった。天はそれだけであったと思うが、嘗てこの頂に立った岳人達は何を想ったのであろうか。数々の物語の人物に想いを馳せてみた。また、次の山旅を、そしてこれから先に競く道程を考へてみたりもした。しかしながら、終わりは突如としてやってくるもので、例の事故により、行程の半分を残したまま下山が決定してしまった。しかし、回数も僅かながらも、数多くの教訓とこれから私がやる事を冬合宿は示してくれた。

また、冬山に臨む者としての体力を十分に付けていなければならないことがある。明らかにこれは自分が自分に対して甘えているかを示していることであり、結局のところ、夏から何も変わら

いよかつた、ということである。今日はラッセルも死んでしまつた
し、バリエ、隊の行動を遅らしてしまふことがしばしばあった。後、アズ
クインクに連れて行つてもらった時も如何に自分のラッセルが重いか
か思い知ろされることになった。雪山の基本はラッセル。特に今冬
では1年のびきることといつたらラッセルと歩者どろいするのだから、それ
ができなかつた。正しく今日は隊員としては矢張りであつた。

もう一つは、今年一年、山のカが全く付かぬやつ、ということである。
新人合宿から早もう半年以上が経過したが、結果として、今冬に行
れた山行は、合宿の合宿には、おつ結び付かぬやつおまゐりかす
る。特に、長期に渡つて山に向き合える力が欠如してゐた。

私は今、はつきり自覚しなければならぬ。如何に今、自分の
レベルが低いかということ。そして、今のまゝでは上級生を勝
たせまいということ。今日の合宿で、自分が目指すべき上級生像
はほぼ把握できた。残りの三ヶ月は、如何に自分をそこへ持って
いくか。そして一度落ちてしまつた調子をとこまじ上界させるか
が課題となる。今のまゝでいるつもりでは毛頭にも
ない。努力あるのみ。自分のできることはそれしかない。

最後に他の一年へ。

たつた、T

小尾へ... 横尾の軽率な僕の発言は謝まる。しかし、同級生
に於てこのまゝにしているおでは、いつか愛想尽
かされるぞ! 少くもでもうまく来れや。

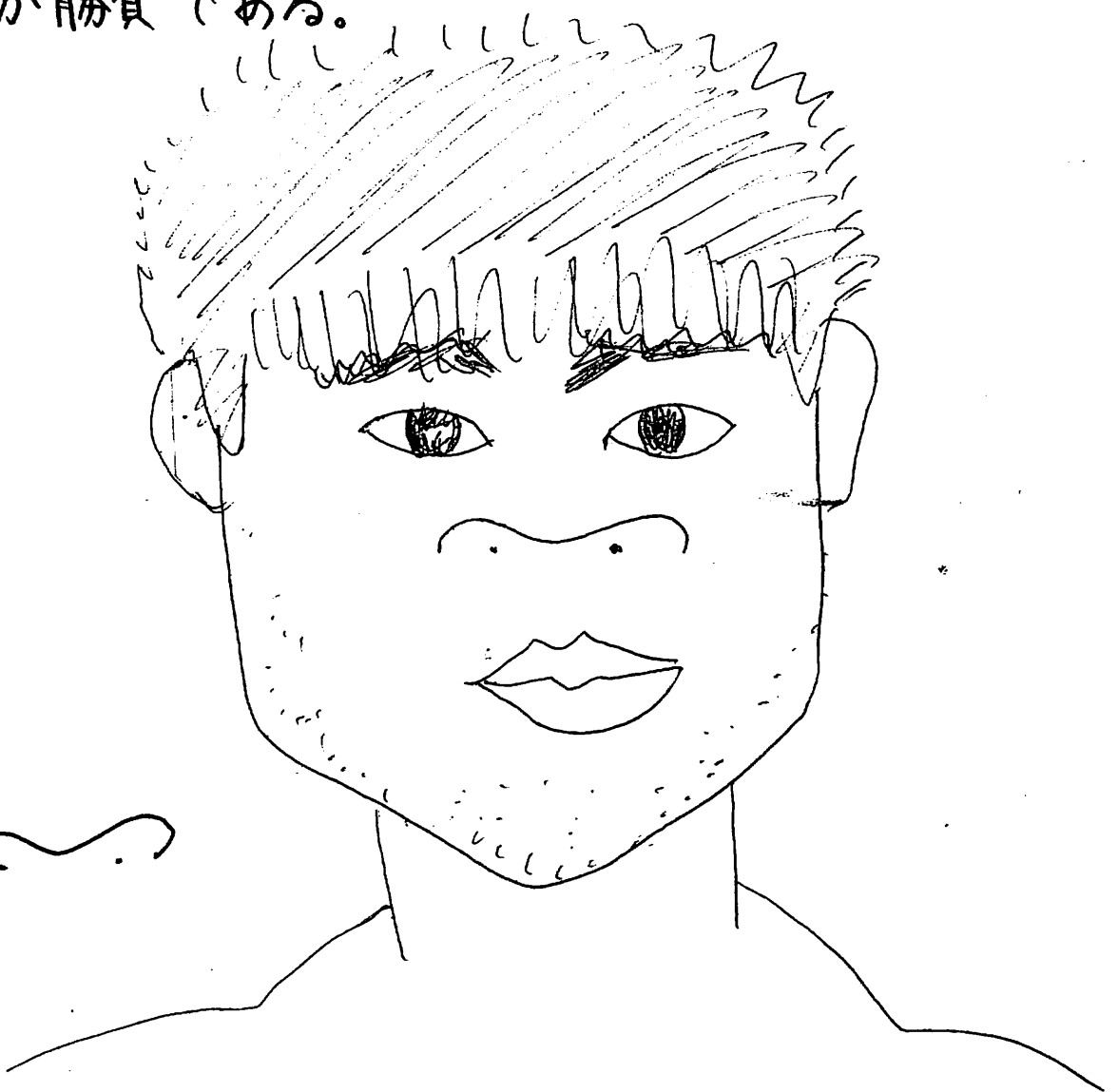
ハタへ... 無事で何より。色々と教訓にもなつた。おつたと思つた
またまたお前は山というものを知り必要があると思つた。

反省・感想 1年 畠中 流

今回の合宿の反省点は、事故を起こしてしまったことだ。どのような状況で、どのような場所で、どうして自分が滑落したのかがよくわかっていないことが大きな問題である。それがわかっていれば今後の事故防止にもつながりやすいたろう。しかしわかっていないとなると同じ事故を繰り返す危険性が残る。しかし、その瞬間の記憶がよいということは、その時自分が一歩一歩に気をとがらせていなかったということである。つまり集中力が足りていなかったのだと思う。

「冬山では一歩で死ぬ。でもそこがいい」という言葉を下山後OBの先輩からきいた。確かにその通りだ。自分はその言葉を体で体験したようなものだから身に染みて理解できた。冬山では一歩が命を左右してしまう。ということか。いつも胸にしみ込んでいけば、今回のような気の中のみは出ないはずだ。冬山の厳しさを知ること、これが今後の事故防止策になると思う。今回は僕の事故で会の人みんなにめいわくをかけたし心配もかけた。自分はまたまた一人では山に登れない、仲間あっての自分であることを実感し、仲間のありがたみを感じた。山でのカッは山で返そう。そう思って下山した。

今回は、合宿直前にインフルエンザにかか、てしまい合宿不参加という事になりました。体調管理という基本的な事ができないようでは、駄目である。ア、冬、冬合宿に続けて会に迷惑をかけてしま、たので、これから基本を忘れず、実力をつけて会のかとされるよう精進したい。2月3月が勝負である。



冬合宿を終えて...

三森 武志

今回は上級生として初めての冬合宿だったわけだが、反省すべき点が多かったように思う。まずあげられるのが、先を見越して行動していないということだ。2年生となり、FIXヤルファイで先頭に立つことが多くなった。そのため隊の安全ばかりに目がいき、ペースや時間のことまで頭が回らなかった。結局それが隊を遅らせ、稜線まで4日かかることになってしまった。またこれには自分の体力不足もある。ガンガン隊を引っ張って行くのが自分の役目であるのに、ときにはバテて遅れてしまうこともあった。上級生の少ない中、こんなことでは話にならないどころか危険でさえある。これらのことを含め、今回のことを生かし、めっちゃりとして山で力をつけたい。

ラッセルに次ぐラッセル、森林限界を越えてもスボスボといまは足。どーなつたんだと心の中で叫びながらまた歩き出した。しかしその分稜線歩きは格別だった。そして槍からの大展望。それまでのつらさをふきとばす魅力があった。泥くさいラッセルもいっか、爽快な稜線もまたいい。そのどちらも経験できた実に楽しい8日間だった。

}

冬合宿を終えて

3年 片寄 哲生

「あけない幕切れ」とはまさに本合宿のためにあるのではないかと思われるほど突然に今年度最後の合宿が冬合宿が終わった。滑落事故という、あてはまらない原因での下山は衝撃的ではあったものの、かえって下山後にホッカリと開いた空虚な何かを僕にもたらししていた。下山当日の晩を風呂と食事でも過ごして翌朝を迎えた時、無性に独りでボンヤリしていたいという欲求が強かったのを覚えている。それでも、午後に予定されていた事故検討会議で皆が集まり包みかくさず話をできたことは、その空虚さを埋めてくれたような気がする。

SLとして最後の合宿でもあり、リーダー佐藤の長所を汲み取るとともに、短所はけん制する気構えで臨んだ。合宿前半で風邪をこじらせて隊に遅れをとった失態もあったが、気持ちだけは前に前につき進めていたはずだ。

本合宿も含めて3回の冬合宿はいずれも敗退。しかも年ごとに入山日数も減る始末。来年こそは、自分がリーダーの時は、という感情が当然ある。事故はもちろんあってはならないし、敗退するのともううんざりだ。今年の一年生も名前が立派な2年生となって戦力となってくれるに違いない。そう、来年こそは完走だ!!!

冬合宿が"終わった.....

このような形で終わってしまったことは非常に残念である。結局、4年間冬合宿、

一度も或功なし。クズ.....

しかーし、4度の失敗から得たことは誰よりも大きい、と信じていたい。

ふら、おまえら、来年こそ成功させてくれよ。

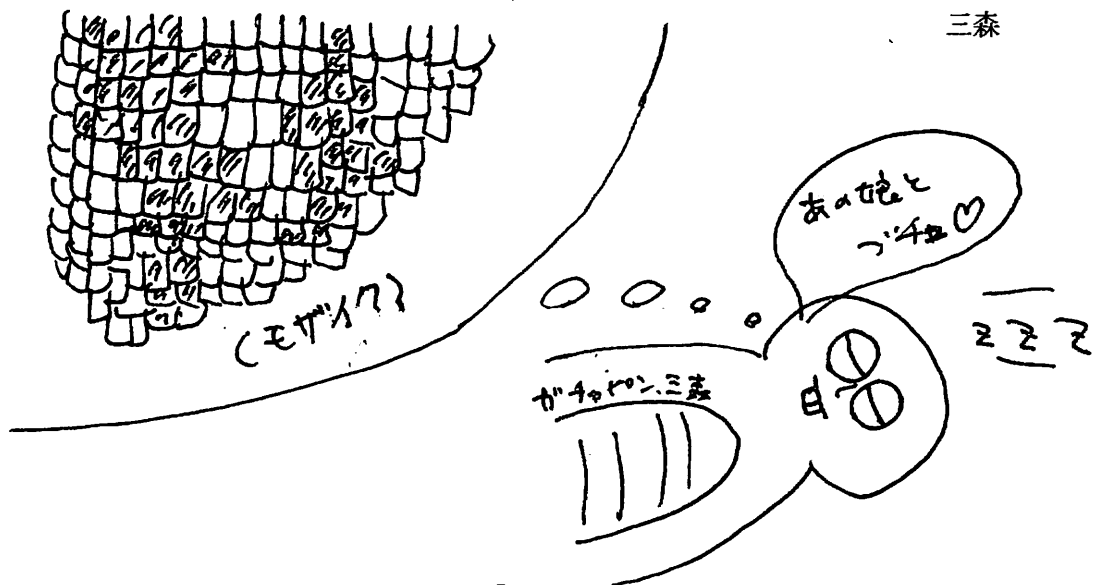
18

樹



装備の反省・感想

- ・紛失物はハーケン 1 本とツェルト 1 つ。ツェルトは畠中のザックの中。ハーケンはくくりつけていた紐が千切れたと思う。
- ・ローソクが少なかった。1 週間で 1 本半使ってしまったので、もう 1 本持っていけばよかった。
- ・スリングがすぐに使える状態ではなかった。
- ・竹ポールがボロボロ。20 本持っていったのに次に使えるのはたったの数本しか残らなかった。材質を変えたり、長さや収納法を変えるなどの工夫をすべき。でないと持っていても使えないなんてことになる。
- ・MSR の調子が非常に良かった。やはり長期の合宿に行くときはよく選別したものを持っていくのがいいと思う。
- ・銀板がもう裂けそう。みんな大切に扱いましょう。
- ・内張りしっかりと直していったつもりが最終日近くなると外れてしまっていた。またファスナーが壊れた。
- ・ガスの量を多めに持っていったために、逆に生活面でおざなりになってしまった部分があった。
- ・コンバイン袋がどんどん減っている。近いうちに補充するか、新しいものに換えるかしないとならないだろう。



エッセンの反省・感想. (全)

インフルエンザの高谷君に変わり、佐トが担当した。
今回のエッセンは"改革"のつもりであつたが、いなか
でしょうか。来年、エッセン係を担当する人は今回のい
いところ、悪いところを取捨選択し、継ぎ合わせてほしい。
以下、感じること。

- ・冬のレーションはチョコ、フルーツ系が"夕夕"と良い。
- ・最近松本に進出してきた"99円ショップ"の活用。
- ・のどあめは薬局で買つと質が"いい"ものをとる。
- ・10ミカンになんこつは good.
- ・具合一発!!の日の朝、糸茶の砂糖がかりに
コンデンスミルクも。
- ・お茶清けだけでなく、中華羹やうまいなど予備倉
にもバリエーションを。
- ・白米と米をちよつと工夫して五目ごはんにできた。
- ・夜のお茶のかわりにスープはいかか?
- ・乾燥ヨーグルトの使い道を考えよ。
- ・乾物はその日の味(ルー)と合わせるべし。

など。

差し入れして下さる方々、おしくいたがりました。
ご一考、あつかうごまかりました。

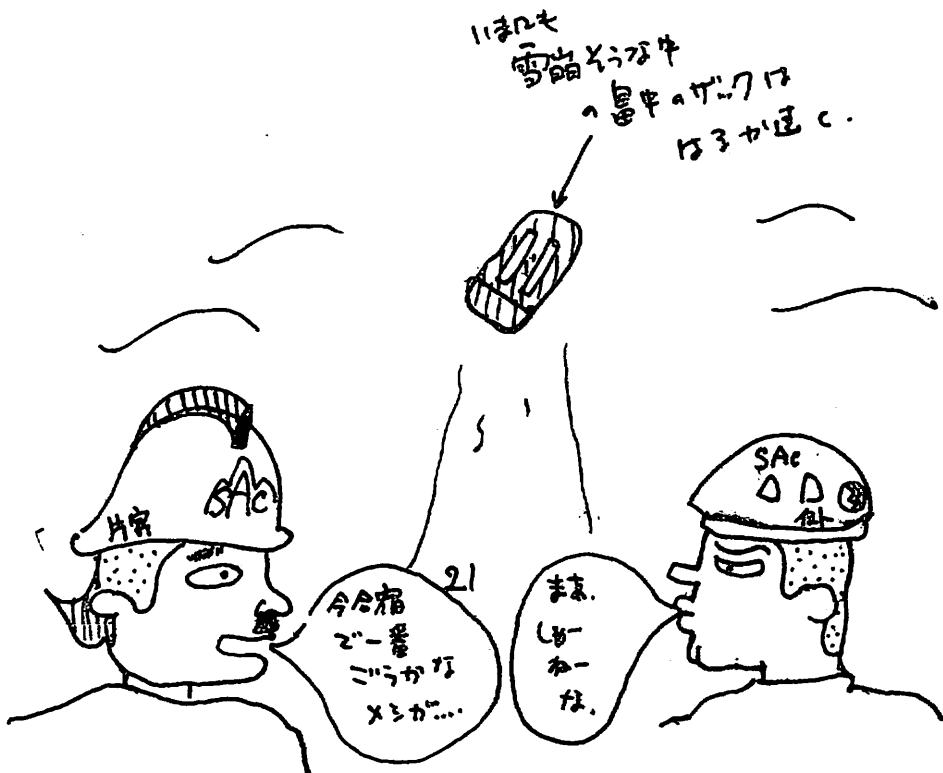
《医療》

- ・ 個人持ちの医薬品として、ユベラやユースキンといったものを携帯させるべきであったのに、特に一年生に連絡が十分に伝わっていなかったこと
- ・ 医療係として、その日ごとのエッセンのメニューにビタミンC系のサプリメントをくわえさせてもよかったかも。
- ・ 次回の合宿(特に夏合宿か)からは医療缶の中身にパンストを加えたい。

その他は医療缶の出番もなく、各自の体調管理だけで済んだことに感謝。

《気象》

- ・ ラジオを壊してしまった。湿気によるものと思われる。慎重な扱いを心がけること
- ・ 高層気象放送についての事前調査をしていなかった。合宿後の調査により、高層気象放送が打ち切られていたことがわかった。



会計

・ 収入 14000円/人 × 7名 = 98000円

酒代差入れ 2000円

計 100000円 ... ①

・ 支出

交通費 10000円

医療缶 504円

食費+装備 81137円

計 91641円 ... ②

{残金} ① - ② = 8359円

渉外

中途な時期に引継ぎになってやったもので、大したことはしていない。敢えて言うとするならば、差し入れしてくださった方々に感謝。

SAC